

有害化学物質による胎児と子どもの悪影響を 最小限にするための政策提言と世論喚起活動

活動地域  日本全域



環境安全基本法案を環境省に提出

課題

海外に比べ日本では有害化学物質の影響に関する認識が一般市民に浸透していない。市民の関心を高め、脆弱な子どもへの悪影響を考慮した化学物質規制強化が必要である。

目標

有害化学物質問題について市民の関心の拡大と理解の向上のため、国際セミナーや連続学習会を行い、化学物質規制強化の政策提言の請願署名3万筆を達成する。

活動内容と成果

会員や有害化学物質問題に関心を持つ全国の生協、市民団体、個人の協力を受け、規制強化策をまとめた環境安全基本法案制定のための請願署名を集めた。その間に有害化学物質の一例である有機フッ素化合物問題についての連続学習会や、海外ですでに導入されているヒト・バイオモニタリング制度の必要性についての国際セミナーをオンラインで開催した。最終的に目標の3万筆を超える4万6千筆の署名を集めて、国会議員の紹介を通じて国会の衆議院と参議院に提出した。また主務官庁の環境省にも提出した。



有機フッ素化合物汚染が分かるパンフレット

ひろげる助成

3年目

知識の提供・普及啓発

請願署名数

46,336筆

国際セミナー 3回の
延べ参加者数

273人

今年度計画の達成度

100%

目標達成度

80%

苦労した点と工夫した点

■ 苦労した点

決して分かりやすくない有害化学物質の問題を、一般の人たちに関心を持ってもらい、国の政策の改善が必要だと思う人たちの増やし、署名数の確保に努めたところ。

■ 工夫した点

海外の最新の研究や規制の情報を入手し、国内の研究者とも協力し、必要な情報を正確かつ分かりやすく提供し、政策提言の必要性を理解してもらうよう努めた。

環境安全基本法制定を求める 国際市民セミナー第2回

有害化学物質から子どもを守る ドイツに学ぶバイオモニタリング制度

海外で先行している有害化学物質規制制度の1つであるバイオモニタリング制度について、ドイツの専門家から学び、国内での導入に向けた議論を行う。

ドイツの専門家から、バイオモニタリング制度の導入に向けた議論を行う。ドイツの専門家から、バイオモニタリング制度の導入に向けた議論を行う。

ドイツの専門家から、バイオモニタリング制度の導入に向けた議論を行う。ドイツの専門家から、バイオモニタリング制度の導入に向けた議論を行う。

ドイツの専門家から、バイオモニタリング制度の導入に向けた議論を行う。ドイツの専門家から、バイオモニタリング制度の導入に向けた議論を行う。

ドイツの専門家から、バイオモニタリング制度の導入に向けた議論を行う。ドイツの専門家から、バイオモニタリング制度の導入に向けた議論を行う。

ドイツの専門家から、バイオモニタリング制度の導入に向けた議論を行う。ドイツの専門家から、バイオモニタリング制度の導入に向けた議論を行う。

ドイツ連邦環境省研究者による
国際セミナー

全助成期間の活動を振り返って

活動1年目の終了間際から新型コロナウイルスが感染拡大し、振り回された3年間であった。ライブのセミナーができなくなる中、急速にオンライン化が進んだ。良い面もあり国際セミナーでは、海外ゲストを招待する手間とコストが大幅に減り回数も増やすことができた。またセミナーや学習会の動画配信も実現できた。そうした活動の中で、活動の賛同者が増え、国会と行政への政策提言活動が達成できたと実感している。

〒136-0071
東京都江東区亀戸7-10-1 Zビル4階
電話：03-5875-5410
E-mail: kokumin-kaigi@syd.odn.ne.jp
HP: <https://www.kokumin-kaigi.org>



今後の
展望

国会に請願した環境安全基本法案について、紹介議員に今後国会の委員会でも取り上げてもらう予定である。また法案の施策の一つであるヒト・バイオモニタリング制度については、環境省が前向きに検討に入ったという情報もあり、今後実現に向けて支援していきたい。次年度以降も引き続き、最新情報の収集、分かりやすい情報提供、政策提言の三つの活動を軸に、有害化学物質のリスク低減のために活動を継続する。